

ほけんだより

病児・病後児保育「みどり」
令和6年10月発行



今月のテーマは「**咳の出る病気**について」です！

RS ウイルス感染症

〈原因〉RS ウイルスの感染によって起こる集団流行しやすい感染症です。

特に1歳未満の乳児にかかりやすく、気管支炎や肺炎を起こすこともあります。

〈症状〉鼻水や咳などの症状で始まり、呼吸にヒューヒュー、ゼーゼーといった音が鳴ります。

〈対応〉今のところRS ウイルスに対応する根本的な薬はないので勘らせないようにするのが大事です。



クルーズ症候群

〈原因〉パラインフルエンザウイルスなどに感染し、咽頭に炎症を起こすことで発症します。

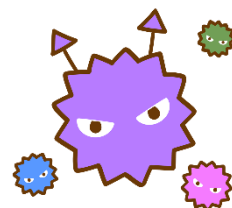
〈症状〉発熱や喉の痛みから始まり、犬が吠えるような甲高い咳が出ます。

呼吸が荒くなり、鳴咽を伴います。

〈対応〉吸入器で消炎剤などを吸入して治療します。家庭では、水分を十分とって加湿器などで部屋の乾燥を防ぎます。



この他にも、ウイルスによる感染症はたくさんあります。
寒さとともに流行しますので、注意が必要です



咳の症状を鎮めるには？

加湿が効果的です。その他、横向きになることで副交感神経の働きで狭くなった気管などが広がりやすくなるので、咳止めの効果が期待できると言われています。子どもは、強くせき込んでしまうと吐いてしまうことがあるので、咳がある時には消化の良いものを食べさせてあげましょう。



快適に過ごせる湿度は何%？

室内で快適に過ごせる湿度は、40%～60%と言われています。湿度が40%以下だと肌の乾燥、ドライアイなどの原因になります。またウイルスは湿度40%以下の環境で活発化するとされています。

